

徳島の橋を用いた土木のPRの取り組み

阿南高専 正会員 森山 卓郎

1. 目的

筆者は、高専の学生だけでなく、小中学生に地元の橋梁に興味を持ってもらえるように、「徳島の橋かるた」を作成した¹⁾。筆者が勤務する阿南高専創造技術工学科建設コースでは、数年前に土木系科目に加えて建築系科目を多く学べるようになってから、建築分野に興味がある学生が増えている。しかし、その一方で、土木分野の特に橋梁に興味がある学生が最近少ないように感じていた。筆者はそれを改善することを目的とした土木教育に関する取り組みをこれまでも行い、橋のかるたの作成はその延長上で行った。かるたを用いた出前授業も中学校で実施した。かるたに用いた写真を使ったカレンダーの作成も行い、希望者に無料配布した。

また、阿南高専では小中学生に高専のPRを行うために、徳島県内の大型商業施設におけるイベントを開催している。そのイベントに建設コースとしても参加し、昨年は「ペーパーブリッジをつくろう」というテーマの企画を行った。来場した子供には、紙で徳島の橋を作成してもらい、特に興味がありそうな子供には橋の構造などの説明も行った。本稿では、これらの徳島の橋を用いた土木のPRの取り組みについて報告する。

2. 取り組みの内容

2.1 かるたの作成

「徳島の橋かるた」を作成したのは、例えば橋を紹介するパンフレットなどを製作しても捨てられやすく、本などではよほど関心がないと手に取って読まないと考え、何か変化のある教材がいいと考えたからである。かるたは、16世紀にポルトガルから伝来したと言われている。日本ではお正月の子供の遊具として使われてきたが、近年は「土木偉人かるた」や「防災かるた」など教材としても注目され、様々なかるたが各所で作成されている。そこで、教材としてのかるたに着目し、地元の建設コンサルタント会社の(株)エー・アンド・ビーの協力により、徳島県の主要な橋の写真を用いたかるたを作成することを考えた。かるたの絵札の裏面には、子供にわかるような簡単な表現で橋についての説明を記載し、さらに関連した地理や歴史についても記載した。

2021年に「徳島の橋かるた」の第1弾を作成し、2022年には第2弾を作成した(図1)。これらはそれぞれ700部作成した。いずれも本校webと新聞の掲載などによりアナウンスを行い、希望者に無料配布した。さらに、この「徳島の橋かるた」を用いた出前授業を2021年9月に阿南市内の中学校の1~2年生40名に、2022年10月に徳島市内の中学校の2年生3クラスにおいて行った。

2.2 カレンダーの作成

「徳島の橋かるた」に用いた橋の写真のカレンダーを2021年と2022年の年末にそれぞれ翌年のものを作成し、希望者に無料配布した(図2)。これまで作成したかるたはいずれも48の橋の写真を用いたので、カレンダーには毎月4つずつの橋の写真を掲載し、それぞれ100部程度作成した。本校webと新聞の掲載により

キーワード 土木教育, 橋, かるた, ペーパーブリッジ

連絡先 〒774-0017 徳島県阿南市見能林町青木265 阿南高専創造技術工学科建設コース TEL0884-23-7100



(a) 第1弾の外箱表面と内箱底面



(b) 第1弾の絵札表面と絵札裏面の1例



(c) 第2弾の外箱表面と絵札表面の1例

図1 徳島の橋かるた 48橋 全県版

アナウンスを行い、希望者に無料配布した。

2.3 ペーパーブリッジの作成

徳島県内にあるドイツ橋、めがね橋、潜水橋などのペーパーブリッジを作成した(図3)。ドイツ橋とめがね橋は、写真をそのまま用いてカラープリンターで厚紙に印刷しただけの簡易的なものである。潜水橋は、橋桁を厚紙で作成し、橋脚を発泡スチロールやストローで作成した。

3. 取り組みの効果

3.1 かるたの配布と出前授業の実施

「徳島の橋かるた」は子供や孫がいる方から欲しいという連絡が多かった。図書館や学校関係者からの連絡も何件あった。中学生より小学生のほうが喜んでくれている印象を持ったので、第2弾では読札の漢字にふりがなを入れた。

このかるたを用いた出前授業を行った際には、2回とも生徒は皆かるたに夢中になって取り組み、終了後のアンケートも概ね好評だった。2回とも終了後には、多くの生徒からかるたを欲しいという申し出も見られた。

3.2 カレンダーの配布

カレンダーは子供からの申し込みもあったが、かるたとは異なる方からの申し込みもあった。年齢は少し高めだったが、子供や孫にというよりは自分用にという方も若干いるように感じた。県外の方からの申し込みも数件見られた。

3.3 ペーパーブリッジの実施

2022年の5月、7月、10月に県内の大型商業施設で行った阿南高専のイベントにおいて、来場した子供に徳島の橋のペーパーブリッジをつくってもらうコーナーを設けた(図4)。用意した5つほどの席がすべて埋まるときもあるなど、概ね好評だった。「徳島の橋かるた」も見せながら橋の構造などの説明も行ったところ、興味を持ってくれた子供も見られた。

4. まとめ

まだ人数は少ないが、「徳島の橋かるた」で遊んでくれた中学生や大型商業施設でペーパーブリッジを作成してくれた中学生が阿南高専を受検して建設コースを希望してくれたことを後から知ったので、今回を行った範囲では、徳島の橋を用いたかるたやカレンダーを作成して配布したり、紙などで徳島の橋をつくったりする試みは有効であったと思われる。アナログ的なものではあるが、このような試みにより、小中学生の橋や土木、阿南高専建設コースへの関心が多少高まったように思われた。2023年春には、「徳島の橋かるた」の番外編的な位置付けの「徳島の橋カード」の吉野川版を作成した。今後も実施内容を見直ししながら、小中学生や高専の学生に橋や土木により興味を持ってもらえるような試みを継続していくことが必要と考える。

参考文献

- 1) 森山卓郎：橋かるたの教育効果に関する検討，令和4年度土木学会全国大会第77回年次学術講演会 共通セッション CS1-21，2022.



図2 2023年 徳島の橋カレンダー



(a) ドイツ橋



(b) めがね橋

図3 徳島の橋のペーパーブリッジ



図4 イベントの風景